

オーディオ実験室収載

My Sonic Signature Gold の活用(24) —アナログと他メディアの比較試聴(24) —

1. はじめに

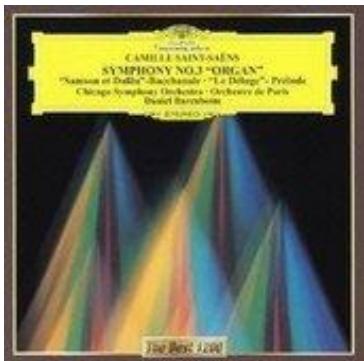
今回は、サンサーンスの交響曲 3 番ハ長調オルガン付きを取り上げます。

2. My Sonic Signature Gold の試聴結果

前報(1)に述べた方法で試聴していきます。

【アナログ盤】

ドイツグラモフォン MG2512 ダニエル・バレンボイム指揮シカゴ交響楽団
サンサーンス交響曲 3 番ハ長調オルガン付き



TELARC10051 ユージン・オーマンディ指揮フィラデルフィアオーケストラ
サンサーンス交響曲 3 番ハ長調オルガン付き



【CD】

Victor JMCXR-0002 シャルル・ミュンシュ指揮ボストンシンフォニー
サンサーンス交響曲 3 番ハ長調オルガン付き



【BPODCH】

2015.9.26 収録 ズビン・メータ指揮ベルリンフィル

サンサーンス交響曲 3 番ハ長調オルガン付き



3. My Sonic Signature Gold の試聴結果

バレンボイム指揮のアナログ盤は、1975 年の録音ということで、非常に明晰な録音であり、この曲らしいスケール感が楽しめます。

オーマンディ指揮のアナログ盤は、デジタル録音であり、各パートがその都度浮き出るような録音で、オルガンの量感が際立ちます。

ミュンシュ指揮の CD は、多少音は粗いですが、マスとしての迫力があります。

メータ指揮ベルリンフィルの BPODCH は、メータの地味ながら堅実な指揮の下に、ベルリンフィルの低弦の魅力とオルガンの明晰さが魅力で、これぞ現代のサンサーンス 3 番という印象です。

4. まとめ

それぞれのメディア独特の魅力がありますが、バレンボイム指揮のアナログ盤、オーマンディ指揮のアナログ盤はともに録音の良さの魅力があり、メータ指揮の BPODCH は現代の代表的な演奏ということができます。

以上